

コートジボワール

Republic of Côte d'Ivoire

①人口：2,130万人* (2008年) ②面積：32万2,462km ² ③1人当たりGDP：1,132米ドル (2008年)	④実質GDP成長率 (%)	2006年 1.2	2007年 1.5	2008年 2.3*	
	⑤貿易収支 (CFAフラン)	1兆6,257億	1兆2,290億	1兆4,914億*	
	⑥経常収支 (CFAフラン)	2,504億	△666億	2,112億*	
	⑦外貨準備高 (米ドル)	17億9,800万	25億1,900万	21億6,619万*	
	⑧対外債務残高 (CFAフラン)	6兆3,680億	6兆3,825億	6兆2,099億**	
	⑨為替レート (1米ドルにつき、CFAフラン、期中平均)	522.89	479.27	447.80	
	(注) *推計値、**暫定値 (出所) ①④⑧：経済・財政省、②：西アフリカ経済通貨同盟 (UEMOA)、③⑦⑨：IMF、⑤⑥：経済・財政省/西アフリカ諸国中央銀行 (BCEAO)、⑦の2008年はBCEAO				

国内情勢、国際関係改善で内需拡大

和平プロセスの進展で国内情勢が安定したことにより、2008年のコートジボワール経済は内需が牽引するかたちで食品加工、石油精製、運輸・通信分野の生産活動が活発化した。輸出入耕作部門と鉱業資源採掘部門の生産不振が響き、実質GDP成長率は2.3%にとどまったが、99年のクーデターや2002年の紛争の影響で一時的に停滞した経済は、2007年に続き回復基調にある。2009年3月にIMFとの間で合意された貧困削減・成長ファシリティによる経済改革と、HIPC (重債務貧困国) イニシアチブによる包括的債務削減は、貧困からの脱却に向けた持続的成長の追い風になると期待される。

原油・同製品、カカオ豆・同調製品輸出が好調

2008年の輸出は、カカオ豆など主要製品の生産不振で数量が減少したものの、国際価格上昇により前年比14%増の4兆4,000億セーファーフラン (以下、CFAフラン)、輸入は内需回復で中間財、消費財が増加したため10%増の3兆5,274億CFAフランとなり、貿易黒字が8,725億CFAフラン (前年比33%増) に拡大した。ただし、輸出部門はGDPの約4割を占め、またその主要品目がカカオ豆・同調製品や原油・石油製品であるため、依然国際価格変動の影響を受けやすい経済構造になっている。

輸出を品目別 (金額ベース) にみると、2008年前半の原油価格高騰の影響で原油・石油製品が急増した。需要の高まりと輸出先の多角化を背景に2007年に引き続き主要な輸出品目 (おのおの構成比15.6%、21.5%) となっている。なお、好調な国際市況や政府による国内加工率向上奨励策を反映し、カカオ豆・同調製品も大幅に増加した。

国別では、近年はフランスが最大の相手国になっており、主にカカオ豆、マグロ缶詰が輸出されている。また、

オランダ、米国、ドイツ向けもカカオ豆や原油を中心に、ガーナ、ブルキナファソ、マリ向けも石油製品を中心に大幅な伸びをみせた。一方、ナイジェリア向けは、9割弱を占める主要品目である石油製品が減少し、8.6%減に転じている。

輸入を品目別 (金額ベース) にみると、国内石油精製部門の生産増を背景に、原油 (構成比33.9%) が急増し、原油価格高騰の影響もあって前年比32.2%増を記録した。

表1 コートジボワールの主要品目別輸出入 <通関ベース>

(単位：10億CFAフラン、%)

	2007年	2008年		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額 (FOB)	3,856	4,400	100.0	14.1
農畜水産物	15	20	0.5	33.3
工業・輸出農産物	1,153	1,286	29.2	11.5
カカオ豆	688	789	17.9	14.7
林産物	170	171	3.9	0.6
農産物加工品	580	727	16.5	25.3
カカオ調製品	366	474	10.8	29.5
その他産物	1,938	2,196	49.9	13.3
原油	495	686	15.6	38.6
石油製品	762	946	21.5	24.1
輸入総額 (CIF)	3,198	3,527	100.0	10.3
食料品	562	695	19.7	23.7
鮮魚	131	175	5.0	33.6
コメ	156	210	6.0	34.6
食料品以外の消費財	558	604	17.1	8.2
医薬品	85	102	2.9	20.0
プラスチック	108	121	3.4	12.0
自動車	103	108	3.1	4.9
石油製品	62	65	1.8	4.8
中間財	1,361	1,717	48.7	26.2
原油	903	1,194	33.9	32.2
資本財	717	511	14.5	△28.7
機械機器	215	232	6.6	7.9
電気機器	177	164	4.6	△7.3
輸送機器	246	76	2.2	△69.1

[注] 2008年の数値は暫定値。

[出所] 表2とも、コートジボワール税関総局。

次いで機械機器、コメ、鮮魚、電気機器、プラスチック製品、自動車、医薬品と続く。電気機器が減少したのは、消費者の低価格志向を背景に割安な中国製品がフランス製品のシェアに並ぶまでに迫ってきたためである。輸送機器は、2007年に増加したフランスからの戦車・装甲車両など軍需用品輸入が2008年に実績ゼロとなった結果、減少した。

国別では、ナイジェリアが最大相手国である。フランスは輸送機器、電気機器類が軒並み不振であったが、品目が多様化した中国、コメが急増したタイ、原油が急増したベネズエラなど相手先にも多様化の傾向がみられる。

コートジボワールなど15カ国が加盟する西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）は、EU諸国との地域経済統合を図るため、2009年中の経済連携協定（EPA）締結に向け交渉している。なお、政府は本協定締結に先立ち2007年12月にEUとの間でEPA暫定協定に調印している。

■電気通信、農産品加工部門に大型投資案件

経済・財政省と西アフリカ諸国中央銀行（BCEAO）によると、2008年の対内直接投資額（国際収支ベース、ネット、フロー）は2,115億CFAフランで前年比3.3%増となっている。コートジボワール投資促進センターの認可ベース統計（エネルギー上流部門、建設・不動産、金融部門の案件は除く。商業、輸送については5億CFAフラン以上が対象）では91件で前年より7件減少したものの、電気通信（構成比36%）、農産物食品加工部門（31%）への大型案件や、国内需要が高まる医療、機械・製鉄、観光、輸送分野への新規計画が増え投資は回復基調を維持している。

国別では、従来の欧米諸国に加えアフリカ諸国の進出があり、投資の面でもパートナーの多角化が進んでいる。

主な民間投資事例として、急成長する電気通信部門ではオリセル（リビア）が5社目となる新規参入を果たし、2009年中に1億ドル（約448億2,000万CFAフラン）とする投資計画を発表したほか、トーゴを本拠地とするA-CELL（704億CFAフラン）やレバノンのコミヨム（129億CFAフラン）がある。また南アフリカMTNグループによるアロバーズテレコムとアフネットインターネットの買収があった。農産物加工部門ではカカオ、綿、ゴムなどの加工製造にベルギーやフランスが参入、そのほか製造業部門でもレバノンによるプラスチック加工と製材などへの投資が相次いだ。サービス部門では観光・ホテル業でフランスからの大型案件があった。民営化・民活型の建設・運営・譲渡（BOT）方式の公共事業では、発電、港湾ターミナル事業でフランスに加えベルギーが新たに参画した。加えて亜鉛鉄板製造のパキスタンと日系

表2 コートジボワールの対日主要品目別輸出入 <通関ベース>

（単位：100万CFAフラン、%）

	2007年	2008年		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額 (FOB)	3,623	3,638	100.0	0.4
カカオ調製品	3,519	2,562	70.4	△27.2
カカオ豆	0	0	0.0	-
木材・同製品	13	21	0.6	61.5
輸入総額 (CIF)	78,423	91,523	100.0	16.7
自動車・同部品	44,786	51,764	56.6	15.6
スラグサンド	7,650	12,018	13.1	57.1
セメント/クリンカー	7,181	6,406	7.0	△10.8
機械機器	3,848	4,683	5.1	21.7
ゴム製品	2,522	2,702	3.0	7.1
人造繊維	1,494	2,056	2.2	37.6
電気機器	660	1,043	1.1	58.0

のトール・イボワールがタイル製造のセジェイーを吸収合併するなど資本参加、買収の動きもみられた。またリビアのBSIC銀行が支店開設を発表した。

2009年11月に大統領選挙が予定されており、公正な選挙の実施を通じて和平が定着すれば、外国資本による新規投資のさらなる活発化も見込まれる。

■対日貿易、3年連続で自動車輸入が大幅増

コートジボワール通関統計によると、2008年の対日貿易は、前年比で輸出が0.4%増の36億3,800万CFAフラン、輸入が16.7%増の915億2,300万CFAフランとなった。輸送機器を中心に輸入が大幅に増加したのに対し、輸出はマンガン、綿、木材など品目が多様化したもののカカオ調製品的大幅減により伸び悩み、日本側の貿易黒字が拡大した。主要品目の一つであったカカオ豆の対日輸出は、2007年以降実績がなくなっている。

一方、日本からの輸入は急増した。経済活動の回復によりユーザーの購入意欲が拡大している自動車や、コートジボワール国内での住宅・インフラ設備投資増によるスラグサンド、圧延メッキ鋼板、ディーゼルエンジンや作業用トラックなどの機械類、タイヤを中心とするゴム製品など、内需回復を反映した耐久消費財や中間財の増加が目立った。2009年も復興需要で輸入が拡大するとみられる。

日本企業の動きとしては、99年末のクーデター後、日本の対コートジボワール経済協力案件停止や、内政不安長期化への懸念、西アフリカ経済通貨同盟（UEMOA）地域の経済統合進展による組立製造業の競争力低下により、関連部門で撤退・拠点シフトの動きがみられて以降、目立った動きはみられない。しかし2007年以降国内情勢が改善し、2009年に入って日本の経済協力も再開されたことから、日本企業が再度進出する基盤は整ってきているといえる。